

# ひかりのこ

8,9月園便り

聖ミカエル幼稚園  
2014年8月19日

## 『働く』

私は毎朝新琴似の自宅から車で通勤してきます。通勤途中、札幌新道沿いの中学校の横を通るのですが、毎朝清々しい光景を目にします。部活動の朝練習のグラウンドの横、お二人の用務員さんがせっせと外回りの清掃を行っているのです。それが学校の塀の内側だけでなく、外の歩道までも丁寧に丁寧に清掃しているのです。その姿を見て、「よし！今日も一日頑張ろう。」と元気をもらうのは私だけではないような気がします。

また、1学期に行われた運動会で北園小学校をお借りし、プールのトイレを使わせていただきました。校長先生、教頭先生のご配慮で、外靴を脱がなくてもいいよう用務員さんにシートを敷いていただきました。当日の朝、プールに行ってみますと、しわやだぶつきひとつなく、きれいにシートが敷かれています。地域の幼稚園のために、こんなに丁寧に作業をしてくださったことに感謝の気持ち一杯になりました。

学校の中心は生徒たちと先生方です。しかしそれだけでは、学校は成り立ちません。用務員さんや、給食の方や事務の方々が、ご自分のお仕事に責任と誇りと、そして子ども達に対する愛情をもってこそ、成立するのだと思います。

私たちの幼稚園では、職員だけでなく教会員の方々が、朝早くに草刈りをしたり、植物の世話をしてくださっています。幼稚園の美化と、子ども達の安全のためにたくさんの方々が心を砕いてくださっています。

このように、幼稚園でもご家庭でも、私たち大人の働く姿を見ながら子ども達が育つことは、子ども達の成長に、大きな意味があると思います。

子ども達がいつか大人になった時、自分の仕事に責任と誇りとやりがいをもてる、そんな人生を送ってもらえたら、と願っています。

今日から2学期が始まります。まだまだ暑い日が続きますが、お日様の下で、子どもたちがたくさん遊んで、たくさん先生たちやお友達とお話をして、すくすく成長していきますよう、私たち職員一同、心を込めて保育を行ってまいります。保護者の皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

園長 渡部良子

## 月主題：平和への願い

- ・平和を願い、祈る
- ・いろいろな人・事柄に出会い、心をかよわせる
- ・家族や保育者とのゆったりとした時間を過ごす

## キリスト教保育

いつも元気でいたいのですが、人生はそう簡単ではありません。例えば、自分に襲いかかる大きな苦しみや困難のために、心がへし折れそうになることもあります。そのような時、私は自分が受けたと同じ「量と質」の苦しみ、悲しみを他の人が受けた場合、その人は自分と同様に苦しみ、心がへし折れそうになるのだろうか。それとも自分だけが過剰にダメージを受け、こんなに苦しむのだろうかと考えることがありました。苦しみ、悲しみの大きさを数値化することはできないものかと、真剣に考えていたわけです。しかし、どうやらそれは叶わぬ願いのようです。同じ苦しみも、同じ悲しみもない。経験するすべての事は初めてのことで、他の人と同じ悲しみや痛みも存在しない。私たちはそういう孤独を生きているのです。ただ、同じくらい確実なこととして、神さまは私たちを「耐えられないような試練に遭わせることはない」ばかりか、「逃れる道をも備えてくださる」(1コリント10:13)といます。以前、私にそのことを確信させたのは子どもたちの姿でした。先日のお母さん方との集いでも申しましたが、時に子どもたちはメッセンジャーとして、天使として大人の前に現れます。子どもたちは無防備で、悲しければすぐに泣きますが、ご両親の愛と共にある限り、涙はすぐに乾きます。自分の無防備さを、嘆くことも心配することもせず、ただお母さんの愛を信じて抱っこされ、笑顔になるのです。こういう姿を見ていると、人間はこのように造られているのだなあと知らされます。大人になると、抱っこしてくれる人は少なくなります。でも、むかし子どもだった私たちもまた、愛され、抱っこされる必要があるのです。神さまは「まことの親」として、私たちを抱っこするよと言っています。いつも子どもたちを抱っこしているお母さんであればこそ、神さまの思いがきっと伝わるのではないのでしょうか。

チャプレン 司祭 下澤 昌